

シンポジウム

羽曳野のまち全体を

はびきの
大きなセーフティネットに

開場 12:30

2013 3月23日(土) 13時 ~ 16時30分

会場：羽曳野市市民会館 市民ホール 参加費：1,000円 (資料代など)

定員：400人

(定員になりしだい締切)

第1部

講演

中下 大樹 (真宗大谷派僧侶
「寺ネット・サンガ」代表)



『痛み』に寄り添う

第3部

パネルディスカッション

市民が創る『支え合いのまち』

第2部

インド古典舞踊

「復活への祈り」

花の宮 祐三子



分林 康次

(大阪希望館相談センター相談員)

益子 千枝

(精神保健福祉士
よりそいネットおおさか相談員)

中下 大樹

渡辺 順一

(支縁のまち羽曳野希望館代表)

コーディネーター：宮本 要太郎

(関西大学教授
支縁のまちネットワーク代表)

〒583-0857

大阪府羽曳野市誉田1-4-4

TEL:072-958-2311

近鉄南大阪線

「古市」駅下車徒歩5分

羽曳野市市民会館

至天王寺

古市駅

古市小学校

主催：支縁のまち羽曳野希望館

共催：一般社団法人 大阪希望館、支縁のまちネットワーク

後援：羽曳野市、羽曳野市社会福祉協議会

申込：「はがき」または「Eメール」でお申込みください。

〒583-0852 羽曳野市古市2-7-2 「支縁のまち羽曳野希望館」宛

TEL(携帯)：090-1131-8771(代表：渡辺) Eメール：habikino@sings.jp

講師プロフィール

中下大樹◆なかした・だいき

大学院でターミナルケアを学び、真宗大谷派住職資格を得たのち、新潟県長岡市にある仏教系ホスピス(緩和ケア病棟)にて末期がん患者数百人の看取りに従事。

退職後は東京に戻り、超宗派寺院ネットワーク「寺ネット・サンガ」を設立し、代表に就任。

寺院や葬儀社、石材店、医療従事者、司法関係者、NPO関係者等(正会員80名)とも連携し、新宿歌舞伎町に事務所を構え、「駆け込み寺」としての役割も担う等、「いのち」をキーワードにした様々な活動を行っている。

東日本大震災発生後は、いち早く現地での支援に取り組む。

著書に『悲しむ力』(朝日新聞出版/2011)、『死ぬ時に後悔しないために今日から大切にしたいこと』(すばる舎/2012)。



シンポジウム
「羽曳野のまち全体を
大きなセーフティネットに」
開催にあたりまして



人は皆、一人で生まれて、一人で死んでいきます。でも、「ひとりぼっち」では生きていけません。

近年の日本社会は、「無縁社会」「自死社会」という言葉があるように、人と人との繋がりが薄くなって、心の痛みや生きづらさを誰とも分かち合えないような、「ひとりぼっち」の世の中になってしまいました。誰とも会話することなく、家に閉じこもっている、一人暮らしのお年寄り。長引く不況で職や住居を奪われ、あるいは様々な障がいを抱えて、人知れず生活困難に陥っている人々など、孤立や貧困による生きづらさの状況は、日本の地域社会全体に広がっています。そしてこのことは、羽曳野市においても例外ではないのかも知れません。

私たちが暮らす羽曳野のまちは、古来、南河内地方特有の豊かな文化を育んできました。河内音頭やだんじり祭りなどの伝統文化は、住民たち自身の人情や思いやり、支え合う絆が、地域社会を人間味溢れた活気あるまちにしてきたことを、物語っているように思えます。人の痛みに寄り添う優しさや、よそ者を受け入れるおもてなしの心が、地域社会を明るくし、商店街を活性化させてきたのです。また、多くの神社や古墳に残された渡来系文化の痕跡は、古(いにしえ)より羽曳野のまちが、朝鮮半島を始めとするアジア各地に開かれた、多文化共生のまちであったことを今に伝えています。

一人の「ホーム」レスも、一人の孤立死者も地域から生み出さない、そして多様な人々が違いを認め合いながら共に生きる、活気ある「支え合い」のまちづくりを、市民自らが知恵を出し合いながら、協働で創っていききたい。本シンポジウム「羽曳野のまち全体を大きなセーフティネットに」は、そのような願いから企画しました。第三部「パネル討議」では、「派遣切り」などで職と住居を失った若者たちへの支援をしている「大阪希望館」の活動や、刑務所などの厚生施設を出た人々への寄り添い事業を続けている「よりそいネットおおさか」の活動に学びながら、「おもいやり」や「寄り添い」によるまちづくりについて語り合いたいと思います。

支縁のまち羽曳野希望館代表 渡辺順一

